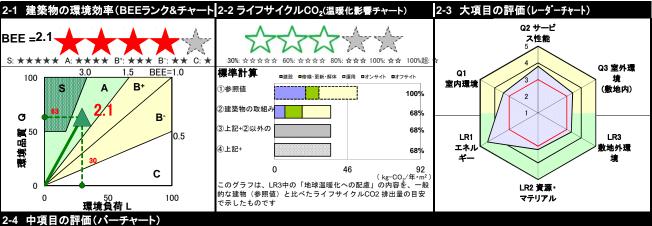
## RFF-建築(新築 ▮評価結果









3 設計上の配慮事項		
総合		その他
伝統ある大銀杏を保存し外周に積極的な緑化を図ってる。	また住宅性能温熱等級4を取得し、室内外ともに省エネ	照明器具は基本的にLEDとしている。
ルギー対策を施した設計としている。		
災害対策として、マンホールトイレ等を設置し、蓄電池		
. I		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
シックハウス対策として、全面的にF☆☆☆☆、規制対	制振装置を導入し、安全性に配慮している。また、敷	敷地内を積極的に緑化し、風環境についても配慮してい
象外の建材を使用する計画としている。住戸内水廻りに	地・建物内には段差の少ない計画とし、高齢者、身障者	る。
ついては二重床とし、将来の更新対策に配慮している。	の方にも安全に利用できるように配慮した。	
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
住戸内にHEMS機器を設置し、電力の見える化を図って	化学物質排出把握管理促進法の対象物質を含有しない建	適切な量の駐車台数を確保し、ビル風対策として、風環
いる。	材種別を積極的に採用している。	境シュミレーションによる周辺環境への影響を検討し
		た。また、明治通りの景観の連続性を配慮し基壇を構
		成。街と一体となるよう外構、ファサードの検討を行っ
		ている。

- ■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
- ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
- ■「ライフサイクルCO2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
- ■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される